



稲作情報第2号

（育苗）

令和7年3月24日～

令和7年4月8日

JA夢みなみ（すかがわ岩瀬地区・あぶくま石川地区）、県中農林事務所須賀川農業普及所

1 気象庁発表 東北地方発表 1か月予報（3月22日～4月21日までの天候見通し）

天候予報（3月20日発表1か月予報）によると、向こう1ヶ月の気温は高く、期間の前半は特に高くなる見込みです。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込みです。

2 育苗

（1）出芽期（芽出しの時期）

30℃を超えともみ枯細菌病が発生しやすいので、**出芽温度は28℃を厳守**しましょう。

平置き出芽の場合、高温時に反射性シート（太陽シート等）使う、低温時に保温性シート（ラブシート等）を重ねるなど、温度調整を行ってください。

（2）緑化期（苗を光に慣らす時期）

ア 温度管理：日中は25℃、夜間は12～15℃を目標に温度管理をします。苗立枯病の発生を抑えるため28℃以上の高温、10℃以下の低温に注意しましょう。

イ 水管理：かん水は床土の温度が上がる**早朝**に行いましょう。

※育苗器で出芽させた場合、苗出し直後に強い光に当たると、白化苗になる恐れがあります。光に慣らすため、晴天時は被覆資材等で葉緑素が作られるまで遮光してください。

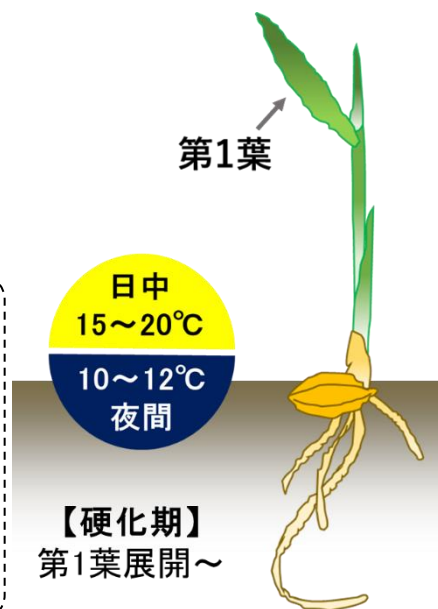
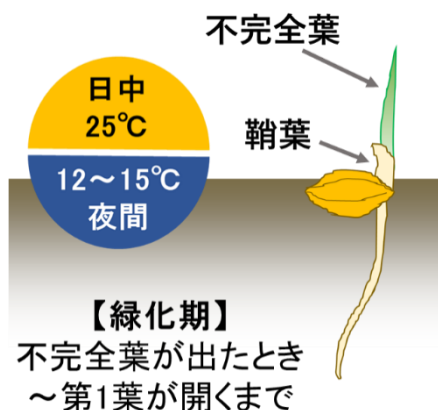
（3）硬化期

ア 温度管理：日中は15～20℃、夜間は10～15℃で管理しましょう。

イ 水管理：日中に土が乾きやすくなりますので、早朝のかん水に追加で適宜かん水をしてください。ただし、夕方のかん水は床土の温度が下がり、根張りが悪くなるため、**午後3時まで**にしましょう。

ウ 硬化：田植前の4～5日は、霜の心配が無い限り昼夜ともビニールハウスやトンネルを開放し、苗を外気に慣らすようにしましょう。

※R6年度は育苗期の高温により、**苗焼け**も多く見られました。本年も高温が予想されるため、温度管理には気をつけましょう。



高密度播種移植栽培（密苗・密播）の注意点～徒長に注意

密苗・密播は播種量が多いため、徒長しやすくなっています。徒長すると、植付けの精度が下がり、田植え後の生育も悪くなります。

徒長と病気を防ぐため、芽出し後は低温に注意しながらハウスの換気に努め、表1を目安に育苗を行いましょう。

表1 密苗・密播の育苗機関の目安

育苗日数 （日）	草丈 （cm）	葉齢 （葉）
15～20	10～12	2.0～2.3

プール育苗の水・温度管理

○入水時期と水深：1回目の入水は、緑化終了後、根が育苗箱底に届き、第2葉が出始める時期に行います。このとき、水深は培土位置より下にして培土や苗が水で覆われないようにします。2回目以降の入水はプールに水がなくなる部分が出始めた頃に行い、水深は培土の高さと同じくらいまでにします。苗が大きくなったら、培土が覆われる水深まで水を入れてください。

○温度管理：1回目の入水までは慣行と同様の管理、2回目の入水以降は原則として昼夜ともサイドビニールを開けて管理します。慣行育苗に比べ徒長しやすいため、温度を従来のハウス育苗より低めにして管理してください。霜・低温注意報が出ている場合は、サイドビニールを閉める等して保温しましょう。

3 育苗期の病害対策～病気を発生させないように温度管理を徹底しましょう～

- ・**30℃以上の高温で、もみ枯細菌病や苗立枯病**などが出やすくなります。
 - ・**5℃以下の低温で、ムレ苗や苗立枯病(ピシウム)**が出やすくなります。霜が予想される場合は、保温しましょう。
 - ・病気が発生した場合は、その種類を見極めて対処しましょう(表2, 図1～4)。
- もみ枯細菌病や苗立枯細菌病が発生した育苗箱は、ハウスから持ち出し処分してください。
- その他の苗立ち枯れなどの病害は、登録のある農薬で被害の拡大を防ぎましょう(表2)。

表2 水稻育苗期の病害と使用薬剤の例¹⁾

病名	主な症状	多発条件	ダコレート 水和剤	タチガレエース M液剤 ²⁾	ダコニール 1000	ナエファイン フロアブル ²⁾
リゾープス	白いカビ(覆土表面)	出芽期の高温	○		○	○
苗立枯病	フザリウム	白やピンクのカビ (地際や籾)	○	○		○
	ピシウム	カビは見えない。 ドーナツ状の枯れ		○		○
	トリコデルマ	緑のカビ(覆土表面、 種籾周囲)	○		覆土後の使用ができる	
細菌	もみ枯細菌病	坪状に枯れ、心葉が 容易に抜ける。	高温多湿、 高pH(6.0以上)		覆土後に使用できる薬剤はないため、 播種後覆土前 に 種籾の上からカスミン粒剤(15～20g/箱)を散布	
	苗立枯細菌病	坪状に枯れ、基部が 白化。				

1) 農薬使用の際には登録内容に従い、規定量使用を徹底してください

2) タチガレエース M液剤とナエファインフロアブルは根の生育促進、移植時の活着促進効果も期待できます。

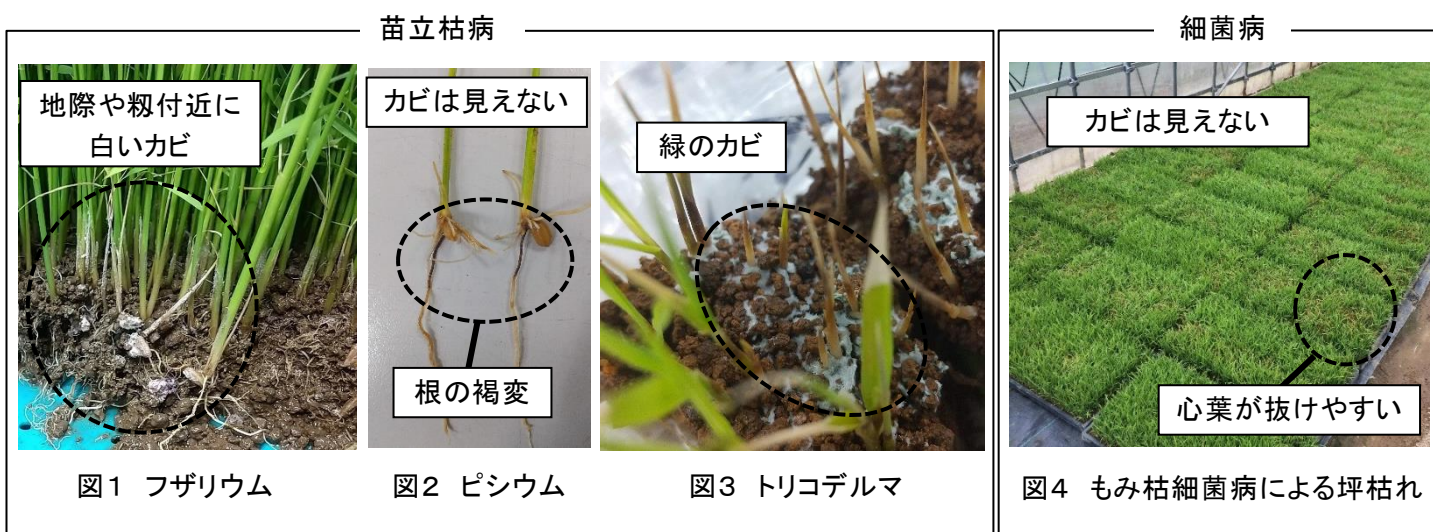


図1～4は福島県農業総合センター作物保護科より提供

その他の注意点

- ・前年度、苗立枯病が発生した育苗箱は、農業資材用殺菌剤(イチバン等)で消毒をしてください。
- ・反射性シート(太陽シート等)のアルミ部分が剥がれていないか確認してください。その箇所に日光が差し込んで温度が上がリ、高温障害や病害が出る場合があります。

△今シーズン農機具を初めて使用する前に、安全点検の徹底をお願いします△

県中農林事務所須賀川農業普及所
電話(0248)-75-2180

ご不明の点は、JA夢みなみ、須賀川農業普及所にお問い合わせください
次回の発行予定日は令和7年4月9日(水)です。

本資料は、発行日現在の農業登録情報を基に作成しています。農薬使用の際は、最新情報を確認願います。